



## K.UNO NEWS LETTER

# Vol. 30

ケイウノは全国に店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。  
この広報通信では、毎月1回、ケイ・ウノのジュエリーやオーダーメイドに関する  
さまざまなヒト・コト・モノの情報を届けます。



## 美術と工学が結びつくことで 新しい可能性が広がるのではないかと 思っています



写真中)橋本 弘安 氏

女子美術大学名譽教授  
日展日本画部特別会員 一般社団法人粉体工学会会員  
天然岩絵具を中心とした材料研究・日本画創作研究を専門とする。

写真右)稻田 亜紀子 氏

女子美術大学芸術学部美術学科日本画専攻准教授  
日展日本画部準会員

写真左)浅川 浩子

株式会社ケイ・ウノ デザイナー

※女子美術大学美術館に展示されている  
日本画家 三谷十糸子女史の作品前にて撮影

ケイ・ウノは、個人のお客さま以外にも  
さまざまな企業やプロジェクトとコラボ  
して、ジュエリーを製作しています。  
今回紹介するのは、「女子美術大学」  
で、日本画の教授として長く教鞭を執ら  
れてきた橋本弘安名譽教授とのコラボ  
レーション。天然顔料研究の第一人者でも  
ある橋本先生が粉碎された岩絵具を用

いて、2つのジュエリーを製作させていた  
だきました。ジュエリーのデザインを担  
当したのは、女子美術大学のOGでもあ  
るケイウノデザイナー浅川浩子。製作を  
担当した職人鈴木郁恵と共に、女子美  
術大学に橋本先生と稻田先生をお訪ね  
しました。

橋本・岩絵具は、日本画の材料と  
して用いられる顔料で、天然の鉱  
石や半貴石を碎いて作られます。  
自然の鉱物を用いた画材は世界の  
中でもユニークで、店舗に行けば  
誰もが買える形で売っているのは  
日本くらい。非常にまれです。

一まずは、今回製作させていただ  
いたジュエリーにも使われている  
岩絵具について教えていただけま  
すでしょうか。

### 日本古来の顔料 「岩絵具」が持つ多くの可能性

最近は合成の顔料が主流となっ  
ていますが、僕は自然のものにこだ  
わっています。30年ほど前から自  
分で石を碎いたりしているのです  
が、細かく粉碎することで活用の  
範囲が広がるのではないかと考え  
ていました。20年ほど前からは  
「粉体(ふんたい)工学会」という学  
会に所属し、素材をナノレベルまで  
微小にする研究を重ねています。

—顔料をナノレベルまで細かくす  
ることで、活用の範囲が広がると。  
橋本：そうです。ナノテクノロジー  
を使って細かく粉碎することで  
手の平大の顔料でテニスコート一面  
を塗れるようになります。自然の  
恵みである天然の鉱物は希少です。  
安定した生産ができない顔料は  
大量生産の社会には向いていません

んが、少量・中量ではさまざまな形で活用ができると思っています。今回のジュエリーもその一つといえるでしょう。

橋本先生はラピスラズリの壁をつくるプロジェクトも進めておられるとか。

橋本 愛媛県の新居浜市にある美術館で取り組んでいる「ぼくたちわたくしたちの壁」というプロジェクトですね。

数ミリのラピスラズリから、参加者一人ひとりが好きな青を選んで、粉末状に碎いて岩絵具をつくります。それを5センチ角の和紙に塗るという工程なんですが、人それぞれ最初に選ぶ青が違ったり、同じピースを使っても異なる青になつたり、どれ一つ取つても同じ青がありません。その多様なところが非常に面白い。

5センチ角の和紙100枚で50センチ四方の1枚のパネルを作り、それを30枚並べて壁にするんですが、来年あたり3000枚を越えそうなので1つの壁面を埋めることになると思います。



(左) 岩絵具のもととなる鉱物や半貴石(中) 岩絵具を作成中の様子(右)一人ひとりが好きな"青"を碎いてつくった岩絵の具で着色したビース

浅川 橋本先生に粉碎していただいた翠銅鉱、ラピスラズリ、アズライト富士山の石、ネパールの石、計5種類の顔料を使って、ラベルピンとペンダントトップの2点を製作しました。先生が直接身につけられるものがよいのはとを考えラベルピンをご提案。学会や教鞭を執られる時にお召になるスーツに合わせられるアイテムとして、実際にジュエリーを見せながら研究についてお話しもいただけたらと。

ラベルピンは、先ほどお話ししていたラピスラズリの壁プロジェクトをイメージして、四角いタイルを組み合わせた形にしました。また、先生は紺糸のスースをお召しになるイメージがあつたので、付けた時にラピスラズリのブルーが沈まないように、四角い枠を少し太めにして、枠自体が反射した上で顔料が目立つようにデザインしています。日本画は平面ではあります

が、橋本先生の研究は奥深いもので、デザインに高低差をつけ、奥行きを出しています。

浅川 いいえ。ジュエリーに顔料を使用するのは初めてでしたので、ずいぶん試行錯誤しました。途中、輝きを出すために、粗めの顔料を使うことも検討しましたがナノレベルに粉碎したの方がジュエリーとして色が綺麗に表現できるなど、発見も多かつたですね。

一製作に関わられた鈴木さんはいかがでしょう。ご苦労された点は? 鈴木 私も顔料をジュエリーに用いるのは初めてでしたので、工夫をしたところはいろいろあります。



橋本先生のラベルピン

今回、日本画で接着剤として用いる二カワを使わず、代わりにふのりを試してみたり、塗布する顔料の量をコントロールしたり。

あと、地金にそのまま顔料を塗つてしまふと、ひび割れがしやすかつたので、先に地金の表面に薄く樹脂を塗つて、顔料をなじませるような工夫もしています。

橋本：顔料 자체があまり世の中に出ていないので、浅川さんのデザインに対するこだわりや、鈴木さんのノウハウは非常に貴重なものといえます。ラピスラズリは石とするでしきうね。ラピスラズリは透明感がある。そうしたことでも工夫していただいたように思います。



植物をイメージした稻田先生のペンドントップ

—もう一つのペンドントップについてお話を聞かせてください。

浅川：こちらは、稻田先生の作品に因んで植物をイメージしたデザイン

にしました。葉をモチーフにしたパーツが、メインとなるバロックパールを包み込むような形になります。顔料を囲む地金は、ラペルピンはシルバーですがこちらはイエローゴールド。植物は息吹を感じさせるものなので、生命の力を表すにはイエローゴールドがいいかなと。また、身に着ける稻田先生の肌色がより美しく見えることも意識しました。

あと工夫したのは、パールと顔料のパーツの間に空間を入れて、風が通る感じを表現したこと。立体的に重なるデザインにしてあります。

—繊細な造作ですね。鈴木さんが大変だったのでは？

鈴木：そうですね。パールの形が独特なので、接着できる箇所が限られていて。そこを探し出してはめ込んで固定するのが難しかったですね。

浅川：鈴木の他にも製作に関わる職人全員と何度もやり取りをして調整しました。顔料がどれだけ見えるかにも気を使いましたね。小さすぎると色が見えないし、パール 자체の魅力を活かすためにも覆いすぎないようにしました。

日本画の魅力とジュエリーとして身につけることとのバランスを計算しながら創り出していく感じでしょうか。

稻田：デザインができるまでの経緯、それをさらによくしていく工程を見せていただいたのがとても興味深かったです。最初のイメージは保ちつつ、細かな点を変えることでどんどんよくなっていくのが明らかでしたから。

浅川：バロックパールは、向きによつて見え方が全然違うため、平面で描いていてもわからない部分があつて…。それぞれの製造工程においても、それぞれの製造工程においても、



職人の鈴木(右)を交えて、ジュエリーに込めた想いや製作過程を振り返る

関わった職人が、プロフェッショナルとしてどうすればジュエリーが最上位のものになるかを考えていきました。

ケイ・ウノは自社の職人と直接やり取りができることが強みです。デザインだけでなく、先生からいただいた資料なども共有してとことん話し合いました。ただ、こうしたことは今回に限ったことではなく、お客様からご注文をいただいた時もまつたく同じように取り組んでいます。

素材自体が持っている物語性を  
制作物に活かしていく

要は、美術に対するこれまでと違った価値観が生まれるということです。有名な作家がつくつたとか科学的に価値があるとかではなくて



富士山の土で塗装した陶器。後ろは展示ブース



小学校の校庭の土で製作した岩絵具。各校で色が異なる

鉱物にしても土にしても、素材自体に物語性があるところが面白い。例えば、今回使つてゐる富士山の土を使つてぐい呑みをつくり、お酒を注げば、富士山に注ぐことができるますよ。隕石を使えば、宇宙に注ぐことができるわけです。

ただ、希少な天然の鉱物があつても、すぐれた粉碎の技術があつても一般的な製品にまで落としこまないとわかつてもらえません。もつとわかつてもらい、知つていだくためにも今回のような形を含

と身近な、例えば母校の校庭の土や、恋人同士が出会った場所の土でもいいわけです。その人にとって特別な意味を持つ場所の土。そこには物語があるのですから。

一橋本先生にうかがいます。今回の製作を通して、岩絵具という顔料の将来についてどのように考えられま

なくて、彩色されている顔料 자체に物語があり、ある種の附加価値を持つてているという。



岩絵具で彩色したさまざまなアイテム。やさしい色合い

ー天然鉱物と最先端技術の組み合  
わせに、大きな可能性を感じまし  
た。今日は本当にありがとうござ  
いました。

## 10月の誕生石「オパール」

リングの中央に輝くオパールは、ご親族から譲られたという由緒あるもの。左右対称に配置された両脇のダイヤモンドが一層の華やかさを添えています。

見る角度によって、多彩なきらめきを放つ“遊色効果”を持つことで人気の高いオパールは、幸運をもたらすとされる宝石。細長い板をねじったようなアームのデザインがアンティークな雰囲気を演出して、クラシカルで上品なリングになりました。

